

—— 専攻の概要 ——

授業料等

専攻：経営分析学専攻
定員：6名
キャンパス：滋賀大学彦根キャンパス
学生納付金：入学金／282,000円（予定）
授業料／535,800円（予定）
※上記に加え、傷害保険等の諸経費が必要となります。

長期履修制度

この制度は、職業を有している等のために標準の修業年限で修了することが困難な学生を対象としています。事情に応じて標準の修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修学生として認められた場合の授業料は、標準の修業年限分の授業料総額を、あらかじめ認められた一定の修業年限で除した額にして、それぞれの年に支払うことになります。

奨学金制度

大学院経済学研究科経営分析学専攻奨学金制度
この奨学金制度は、滋賀大学経済学部・データサイエンス学部の同窓会組織である「陵水会」の支援のもと、優秀な学生に学業に専念してもらうために設立された経済学研究科独自の制度です。

概要等

支援内容…入学年の1年間に対する奨学金の給付（年額100万円）※返済不要
採用人数…2～3名程度（入学試験・成績優秀者）

対 象…一般入試及び推薦入学志願者

本学では、日本学生機構以外に、都道府県教育委員会や地方公共団体及び財団法人等の奨学金について、貸与・給付ともに取り扱っています。

—— 入試制度 ——

選抜種別	選抜方法	出願期間	試験日程
一般入試	筆記試験2科目 (内1科目については統計検定の成績を利用する) 口述試験	【夏季募集】 令和6年 8月22日(木) ？ 8月28日(水) 16時	【夏季募集】 令和6年 9月12日(木)
推薦入試	口述試験		
社会人入試 (一般社会人)	筆記試験1科目 口述試験		
社会人入試 (熟年社会人)	経営分析学専攻の募集はありません	【冬季募集】 令和6年 12月16日(月) ？ 12月20日(金) 16時	【冬季募集】 令和7年 1月25日(土)
社会人入試 (派遣社会人)	口述試験		
外国人留学生入試	筆記試験1科目 口述試験		

※出願期間など変更する場合がありますので、本学ホームページで確認してください。

※一般入試、社会人入試(一般社会人)及び外国人留学生入試においては、出願時に、一般財団法人 統計質保証推進協会の実施する統計検定2級の試験結果レポート(準1級以上合格者については合格証書)の提出を必須とします。

滋賀大学大学院 経済学研究科経営分析学専攻 MBANコース

データを駆使した 経営のプロフェッショナル養成

「MBAN(Master of Business Analytics)」を授与する専攻が
令和6年4月、滋賀大学に誕生。

日本初の学位

MBAN

経営分析学修士
Master of Business Analytics

Point
01

いま世界中の企業が注目する次世代経営者向け学位

生成系AIの登場はビジネス界にかつてないほどの大きな変革をもたらすと言われています。

また、さらに大きな枠組みでいうと、企業におけるDX化推進も待たなしの状況になっています。

しかしながら、こうしたビジネス環境の変化に対応できる人材の確保に不安を抱える企業も多いのではないのでしょうか。

そうしたニーズに応える、新しい大学院教育プログラムが滋賀大学で始まりました。

MBANはMaster of Business Analyticsの略で、経営分析学修士と訳されます。海外ではMIT(マサチューセッツ工科大学)やUCLAなどで同様のプログラムが提供されています。従来のMBAとは違い、経済・経営の専門知識にデータサイエンスの実践的知識・スキルを融合させ、生成系AIも含むDX化時代の次世代管理職/経営幹部に必要な力が身につきます。海外で注目されているこの学位プログラムを、滋賀大学が日本では初めて提供しています。

経営・経済の知識に**データサイエンスの実践的知識・スキル**を融合

➡ **ビジネスに付加価値や競争力をつけることができる**

経営学

+

数理・データサイエンス・AI

+

実践的知識

Point
02

DX化時代に「使える」人材を目指すプログラム

企業にはさまざまなデータが埋もれています。本プログラムは、DX化推進担当やマーケティング担当はもちろん、人事労務管理や財務会計・管理会計、総務企画など企業のあらゆる分野で活躍する皆様のキャリアアップを支援します。CMO、CFO、CHOなどとして、DX化時代をリードする次世代経営者の養成を行います。



Point
03

文部科学省の大学院構築事業に採択

本専攻の設置は文部科学省「デジタルとかけるダブル・メジャー大学院構築事業」に採択された際の計画に基づくものです。経済学研究科とデータサイエンス研究科が協力し、双方の科目を提供するだけでなく、データサイエンス研究科の教員が副指導教員として参加します。

研究環境は国内トップクラスといえます。滋賀大学は「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」拠点校(全国で11校)であり、最新のワークステーションを備えた経営分析用の演習室が整備され、トップクラスの実務家教員を含む教育体制が用意されています。

中野 桂 経営分析学専攻長 教授

MBAとMBANの違いは、端的にいうとMBAがケーススタディを多用するのに対して、MBANはデータを重視するという点です。経営にとってどちらも重要であることは言うまでもありませんが、DX化を背景に、これからの経営者にはデジタル技術を活用し、データを読む力がこれまで以上に求められています。本学の経営分析学専攻は次世代の経営者にとって不可欠なスキルとマインドセットを提供します。



Point
04

産業界から寄せられる期待

ルゾンカ典子 様

コスモエネルギーホールディングス株式会社
常務執行役員 CDO

ビジネス現場において即実践力となる、DSスキルと経営知識の両方を習得できる新形でバランスのとれた経営分析学コースですね。どの業界においてもデータドリブンな経営判断やビジネス課題解決力は必要とされています。期待しています!



小林 文彦 様

伊藤忠商事株式会社
副社長 CAO

まさに今、企業が必要とするビジネスとDXの融合へ、真正面からアプローチするMBANコースが新設されました。MBANで学ばれた人材が、グローバルな社会、経済の新たな潮流の中で、次世代のビジネスリーダーとして、大いに活躍することを期待しています。



越智 道夫 様

ミイダス株式会社
執行役員 CMO

企業では、DXで競争優位を築く事に取り組みだしている一方、経営層と現場の知識の違いがDX化の障壁にもなっています。このMBANは経営への深い理解とエンジニアリングやデータの知識を持つ新時代のDXリーダーを輩出し、企業の成長を促進すると確信しています。

